

講師紹介

増田 樹朗

いつもなら対面で語り合うことができますが、ZOOMがこうやって私たちを繋いでくれるということで暫くは、これで満足をしていくほかありません。どうぞよろしく願います。

本日は、記念講演の講師として浜渦辰二先生をお呼びいたしました。大変光栄に存じます。

ご多忙の中で私共のためにご講演くださり心からお礼を申し上げます。

簡単ですが浜渦先生のご紹介をさせていただきます。すでに学会の記念講演の案内に先生のご専門やご経歴を記載しておりますので、どうぞご確認をいただきたいと存じます。

さて、先生のご紹介と言いながら、じつは私は一度もお目にかかったことがございません。浜渦先生が静岡にお暮しであると承ったにもかかわらず、と縁がなかったことがとても残念です。今後は機会があれば、先生から直接ご指導いただきたいと願っています。

先生がご在職であった大阪大学には臨床哲学研究会という組織がございます。その研究会の冊子に『臨床哲学研究』がございます。私はよく読んでおりました。先生は沢山の論文等をその冊子に寄稿されておりましたので、論文等を通してよく存じ上げている印象があります。

本日のテーマである「ケアの臨床哲学」について先生は最近、積極的に発言・ご執筆をなされておられました。そうしたご執筆などを拝読しておりました時に、私どもの作業所学会にて是非にお話をいただきたいと願ったわけです。

臨床という言葉は〈いのち〉の営みとしての当事者性、〈いのち

〉を支え合うという現場性、あるいは〈いのち〉と〈いのち〉との関わり、つまりは関係性という、いくつかの大切なテーマを含んでおります。それと同時に「共生」の原理なくしてはケアもまた、単なる営利的な行為となってしまうます。作業所が目指している、現場性・当事者性さらには共生としての「あり方」とは何なのか。本日、浜渦先生のご講演をとおして学んでまいりたいと思います。先生、この後どうぞよろしく願います。